

rara-ca

音合わせ心ひとつに「ら」でチューニング… Central Aichi の情報をお届け

7/19(土)

第212回定期演奏会 「重ねあう想い」

愛知県芸術劇場コンサートホール [出演]角田鋼亮、宮田大(Vc)

ドヴォルザーク: チェロ協奏曲 口短調 Op.104
 レーガー: ロマンティックな組曲 Op.125
 チャイコフスキイ: 幻想序曲「ロミオとジュリエット」

チェリスト 宮田 大

SPECIAL MESSAGE



©日本コロムビア

チエロ奏者の宮田大です。セントラル愛知交響楽団とこれまでに共演はさせていただいておりますが、定期演奏会への出演は今回が初めてとなり大変光栄でございます。

以前、金沢でエルガーのチエロ協奏曲をご一緒させて頂いた時に感じたことがあります。セントラル愛知交響楽団と共に音を出した時に、「音楽をとことん楽しむ、音楽の力でお客様を音の旅へ連れて行く」といったものをセントラル愛知交響楽団の音から感じました。音楽に寄り添い、音を楽しめているお姿と演奏にとても感化され、本番中は私自身を(お客様も)音の旅へ連れ出してくださり、皆様のお力のおかげで自由に演奏する事ができました。

私は、その瞬間の会場や空気感を大事に普段から一期一会の演奏を心がけています。リハーサルと本番では全く違ったアプローチや世界観で演奏するのですが、セントラル愛知交響楽団の皆さんも音楽の一期一会を大切にされているので、音楽の対話が同じ方向に流れ、本番ではとても良い化学変化が起きたと思いました。

今回演奏する作品は、私の人生の中で一番多く演奏してきた「ドヴォルザーク: チェロ協奏曲」をお届けします。ロストロポーヴィチ国際チエロコンクールの優勝ガラコンサートで演奏したり、チェリストのナタリー・ゲトマンの代役で急遽演奏した作品もこの協奏曲でした。日本人には「ドボコン」と呼ばれ親しまれているこの作品は、どこか懐かしい雰囲気と哀愁漂うメロディがとても魅力的で、一度聴くと忘れられない独特的な世界をもったチエロを代表する作品です。

私自身も思い出が詰まった作品で、一番の思い出はチェコのドヴォルザークホールでこの曲を演奏した際に、ドヴォルザークのお孫さんが聴きにきてください、「今まで聴いてきたドヴォルザークのチエロ協奏曲の演奏の中で、一番感動し、涙が出ました。」と言ってくださった事です。感極まったお孫さんのお顔は今でも忘れられないですし、次の日にはドヴォルザークの生家を丁寧にご案内してくださり、沢山の思い出や秘話を話してくださいました。

その経験を大切に今回も皆様へお届けできたらと思います。何度も共演させていただいた、角田鋼亮マエストロの的確かつ歌心のある指揮と共にセントラル愛知交響楽団との「一期一会、一音一会」の音の旅を是非体験してみてください。

プラチナ席¥7,000 S¥5,000 A¥4,000 B¥3,000 C¥2,000
 ※U25各席半額(入場時要証明書)

9/20(土)

第213回定期演奏会 「渾身のブルックナー」

愛知県芸術劇場コンサートホール [出演]下野竜也、池田香織(Ms)

ワーグナー: 楽劇「トリスタンとイゾルデ」より「前奏曲と愛の死」
 ブルックナー: 交響曲 第4番 変ホ長調 WAB104「ロマンティック」(ハース版)

指揮者 下野竜也

SPECIAL MESSAGE



©Shin Yamagishi

この度、セントラル愛知交響楽団のみなさんとご一緒に出来ることをとても光栄に、楽しみにしております。しかも、ブルックナー「ロマンティック」を担当する栄誉を頂きました。

私ごとですが、中学1年の頃、ラジオから聴こえてきたかったいい音楽に心を奪われ、曲目がわかるまで最後まで聴いたのが、ブルックナー「ロマンティック」でした。聴いたのは途中からだった様で、それは3楽章でした。正直、それ以外は少々退屈したのをここに申し上げます。ですから、嫌いな苦手な作曲家アンケートで毎回筆頭に挙げる方々のお気持ちも良く分かれます!

その後、この作品を決定的に好きになったのは高校2年生の時、ヘルベルト・ブロムシュテット先生指揮ドレスデン・シュターツカペレが鹿児島に来た時の演奏に大感動してからでした。行ったことの無い、ヨーロッパの森やお城などの風景が見えた様な気がします。

ブルオタという可愛らしき!? 呼び名があり熱狂的なファンもいるブルックナー。片や嫌いな方も。

森を散策する時に、いちいち木や植物の名前を確認するでしょうか? 時折出会う小鳥や、大樹の根元に咲く可憐な花、森を抜けた時に突如現れる美しい湖。そういうお気持ちで接して頂けると嬉しく思います。第4番「ロマンティック」はまさにそういう曲です。2楽章の最後のクライマックスは宇宙です。当日は舞台ではなく、天井を見ながらお聴き下さい!

全ての版や稿を演奏した事はありませんが、00番以外全曲を指揮する程大好きになったブルックナーを、角田鋼亮さんと盛り上がりでいらっしゃるCASOのみなさんと共に、ホールを森の中へ誘うような演奏を目指せたらと思います。

ブルックナーが終生愛し敬ったリヒャルト・ワーグナーを、尊敬する友である池田香織さんと演奏出来る事も嬉しく思います。ワーグナーを熟知なさっている池田さんの歌と芳醇なワーグナーの響きを楽しんで頂けたらと思います。

プラチナ席¥7,000 S¥5,000 A¥4,000 B¥3,000 C¥2,000
 ※U25各席半額(入場時要証明書)



2025年度定期演奏会公演事業助成決定

2025年度定期演奏会(全7公演)が、令和7年度 文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))の助成対象活動として採択されました。この事業は、文化芸術団体が行う優れた公演創造活動を支援することを通じて、我が国の文化芸術を牽引するトップレベルの文化芸術団体を育成し、舞台芸術の水準向上を図るとともに、より多くの国民へ優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供すること目的としています。

Vol.09
2025 SUMMER
セントラル愛知交響楽団
特別情報誌

7/5土

開演14:30

超!有名曲シリーズ Vol.11

愛知県芸術劇場コンサートホール

[出演]松尾葉子、大谷康子(Vn)

メンデルスゾーン:「夏の夜の夢」序曲 木長調 Op.21,MWVP3
 メンデルスゾーン:ヴァイオリン協奏曲 木短調 Op.64,MWV014
 サン=サーンス:ヴァイオリン協奏曲 第3番 口短調 Op.61 ほか

ヴァイオリニスト 大谷康子



幼い頃から楽しく育った名古屋で、メンデルスゾーンの協奏曲を弾かせていただいた!これが私のプロデビューでした。その時から今年でちょうど50周年!この記念の年に、地元名古屋で、セントラル愛知交響楽団の皆様と演奏させていただけたことを運命的に感じ、大変うれしく思っています。

松尾葉子さんと私は、共に名古屋出身、東京芸大時代からの旧知の仲で、今まで何回も共演しています。松尾さんは、知的で、華やかな存在。何でも話せて心強いマエストロです。最近では私のレギュラー番組BSテレ東「おんがく交差点」(毎週土曜朝8:00~)にもご出演頂き、大好評でした。

今回の選曲は「メンデルスゾーン:ヴァイオリン協奏曲」と「サン=サーンス:ヴァイオリン協奏曲 第3番」。メンデルスゾーンは50年前の名古屋でのデビュー曲、サン=サーンスは、コンクール優勝曲で、日本人演奏家として私が唯一のCD録音、ウクライナ国立フィルとも共演した思い入れのある曲です。

それぞれのコンチェルトの前に、素敵な序曲の演奏もありますので、皆様どうぞお楽しみに。会場でお会いしましょうね!

S¥5,000(Sペア¥7,000) A¥4,000(Aペア¥5,600) B¥3,000 C¥2,000
 ※U25各席半額(入場時要証明書・ペア席対象外)

8/2土

開演14:30

Wコンチェルト 2025 成田達輝 Vol.2

愛知県芸術劇場コンサートホール

[出演]齊藤一郎、成田達輝(Vn)

伊福部昭:ヴァイオリンと管絃楽のための協奏風狂詩曲
 伊福部昭:SF交響ファンタジー 第1番
 チャイコフスキイ:ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op.35

ヴァイオリニスト 成田達輝



©Marco Borggreve

「挑戦」好きな私にとって、このWコンチェルトシリーズは、まさに絶好の機会です。ここで演奏できること、そして支えてくださる皆様には深く感謝しています。

今回は、チャイコフスキイと伊福部昭という二人の作曲家の世界をお届けします。前者は西洋音楽のスタイルを取り入れましたが、後者はそうした西洋的なスタイルに必ずしも賛同していなかった。二人の音楽はヨーロッパの伝統的な音楽理論からは少し異質な、独特な世界観を持っています。そんな彼らの魅力的な音楽を通して、お客様を新たな音楽の旅へとお誘いします。

西洋的な論理、弁証法的な考え方方が世界共通の唯一の考え方ではなく、世界にはそれぞれの国や文化に根ざした独自の考え方方が存在することをお伝えできればと思います。

音楽は言葉と異なり、人々の心や感情を直接結びつける力があります。分断が進む現代において、音楽は私たちにとって不可欠な心の栄養源であると信じています。

S¥5,000(Sペア¥7,000) A¥4,000(Aペア¥5,600) B¥3,000 C¥2,000
 ※U25各席半額(入場時要証明書・ペア席対象外)

演奏会をさらに楽しんでいただくために〈当団では様々な取り組みをしています。〉

レクチャー講座「定期演奏会へのプレリュード」



角田マエストロが作曲家のプロフィール、作曲の背景なども含めて詳しく演奏曲を解説します。

参加者の声

レクチャー講座により、内容を少し理解できたような気がして本番を楽しく聴くことができた。

ピアノを使った和音進行の説明やボードでの図解で、初めて聴く曲にも興味が湧いた。



シード・シート

角田マエストロ自身が指揮する定期演奏会に小学生~25歳以下の方を招待する企画です。演奏会当日の開場前に、オーケストラや指揮者の話、実際にステージ上の指揮台に立つ体験も。終演後はマエストロとの交流会も実施しています。



プレトーク

開演前に角田マエストロや音楽主幹山本雅士が演奏曲や楽器の紹介などを行っています。

参加者の声

角田マエストロのプレトークやマーシー山本教授のトークが分かりやすく好きです。プログラムノートや予習ページもとても気に入っています。回を重ねるごとにクラシック音楽の知識の積み重ねができるていると思います。

こんなにたくさん見どころ聴きどころあるなんて!すごく面白かった。

プレトークで紹介された楽器に、演奏中注目できた!

選曲についてのお話も興味深かった。

角田マエストロのプレトークで、楽器が重なると音色も変わるとおっしゃっていた。それそれが様々な色を出して心に届いてきた。まさにpeaceful!



参加者の声

ステージの斜め上の席で、指揮者とソリストのコミュニケーションの取り方を間近で感じることができた。ブレスの大切さやアイコントクトなど、全身で音楽を表現していることが印象に残り、今後自分がアンサンブルをやる際に生かせることがたくさんあった。次はまた違う角度から見られる席で演奏を聴きたい。

初めて知る事が多くあり、とても良い経験になった。今回聴いた曲以外もこれから色々と聴いてみたい。

指揮台からの眺め、音の響き方を間近で感じることができ、大変有意義な時間だった。

作曲家の育った場所について知ることも、音楽を理解する上でとても重要だと分かった。貴重な機会に感謝します。

セントラル愛知交響楽団は、地域社会と連携して音楽で若い世代を育む活動を続けています。岩倉市、半田市、大府市の活動状況をご紹介します。

岩倉市での音楽文化普及事業 ～音楽を通じた豊かな地域づくり～

岩倉市の好意による練習場無償提供を契機に、当団は1990年より小中学校での音楽鑑賞会や中学校での吹奏楽部の指導を行っています。特に2001年に結団した岩倉市ジュニアオーケストラは、岩倉市が掲げる「音楽のあるまちづくり」の象徴とも言える存在です。市役所で月2～3回の練習を行い、毎年の定期演奏会のほか、岩倉駅コンサートや市民音楽祭など、岩倉市内で開催される各種イベントに出演しています。

岩倉市ジュニアオーケストラは、楽器経験者だけでなく初心者の入団も受け入れています。これは最大の特徴で、初心者は単科クラスに入団し、自分の楽器を持っていなくても岩倉市の楽器を借りることが出来ます。単科クラスの団員は、合奏クラスに上がって演奏することを目標とし、日々練習に励んでいます。OB・OGの中には音楽大学に進学し、プロの演奏家として活躍している方もいます。

今年のジュニアオーケストラの第25回定期演奏会は9月7日(日)に開催。「ビゼー:カルメン組曲」など4曲をお届けします。



こうした活動のほか岩倉市内では、岩倉駅で春・秋に行っている「岩倉駅コンサート」、乳幼児と一緒に生の演奏を聴ける「マタニティ&キッズコンサート」、映画音楽やアニメの曲などをオーケストラの演奏で楽しめる「岩倉ポップスコンサート」など、さまざまなシーンで楽しいコンサートが数多く開催されています。

また当団の主催公演として、岩倉定期演奏会を年に1度開催しています。岩倉定期演奏会は、本格的なクラシック音楽に触れる機会として、毎年多くの方にご来場いただいております。第31回目となる今年は、ヨハン・シュトラウスⅡ世生誕200年を記念し、シュトラウスⅡ世の名曲を中心にお届けします。

当団は今後も岩倉市の音楽文化発展を支援していきます。



半田市×セントラル愛知交響楽団 ～音楽のあるまちづくりプロジェクト～

当団は、愛知県半田市とタッグを組み、「音楽のあるまちづくり」をテーマにしたアウトリーチ活動を積極的に行ってています。子どもたちに生の音楽の魅力を届けたい…そんな想いから、0歳の赤ちゃんから小学生まで、幅広い年齢層の子どもたちを対象にした音楽プログラムを開催しています。



まず、「畠でコンサート」というユニークな取り組みです。名の通り、畠の上でリラックスしながら楽しめるクラシックコンサートで、乳幼児とその保護者が気軽に参加できるスタイルになっています。「赤ちゃんが泣いたらどうしよう」と心配しなくても大丈夫。演奏中も自由に動ける雰囲気の中で、親子で生演奏を間近に感じてもらえる、あたたかいコンサートです。クラシックの第一歩を踏み出すのにぴったりな、癒しと感動が詰まった空間となっています。



続いて、市内の全小学校4年生を対象に行っている「出前授業」です。楽団員が小学校へ伺い、楽器紹介やアンサンブルの生演奏などを通じて、児童に音楽の楽しさを体感してもらうプログラムです。普段なかなか間近で見ることのない楽器や、プロの演奏に触れることで、児童は目を輝かせながら音楽の世界に引き込まれていきます。「自分も楽器をやってみたい!」という声もたくさん上がる、毎回大好評の授業です。

そしてもう一つは、幼稚園・保育園向けのアウトリーチで、園児たちに向けて音楽と触れ合える時間をお届けしています。演奏を聞くだけでなく、一緒にリズムをとったり、歌ったり、時には楽器に触れる体験も行ったりと、音楽がより身近に感じられる内容になっています。幼児期に「音を楽しむ」ことの大切さを知ることは、感受性や表現力の豊かさにもつながります。

こうした活動を通じて、当団は「音楽って楽しい!」「また聴いてみたい!」という気持ちを子どもたちの中に育て、将来の音楽ファン、ひいては地域の文化を支える人材育成のお手伝いをしています。

大府市の「健康と音楽」～音楽のまち・バイオリンの里おおぶ～

日本のバイオリン王・鈴木政吉が創業した鈴木バイオリン製造(株)の本社工房がある大府市は、音楽・バイオリンの音色が市民の心に響くまちづくりを推進しています。子どもたちが音楽に触れあえる機会として、市内全小学校4年生がバイオリン体験をするほか、市内各種イベントでも市民がバイオリンに触れ、聴く機会が数多くあります。

大府市は昨年9月に“バイオリンの里おおぶ”的実現を目指して「おおぶジュニア弦楽団」を設立しました。現在は、市内小学生から高校生までのバイオリン経験者と初心者による総勢34名で、当団が月2回の指導にあたり子どもたちは練習



に励んでいます(rara-ca Vol.6でご紹介)。

2月15日(土)に「おおぶ文化交流の杜」で、NHK交響楽団で永くコンサートマスターを務められた篠崎史紀さん(愛称、マロさん)による『音楽は魔法～出張音楽教室』が行われました。その公開講座で、設立後さほど年月が経っていないジュニア弦楽団の経験者グループが受講し、マロさんのひと言一言のアドバイスで見る見る演奏が変わって行く様子を目の当たりにしました。大変素晴らしい体験になりました。

また、これまでの練習成果発表として、春休み期間中の3月25日(火)には市役所ロビーで市民の方々にお披露目をし、温かい拍手をいただきました。

大府市は、本年市制55周年を迎え、その記念式典を9月6日(土)に計画し、式典の中でジュニア弦楽団と同じく昨年度設立したジュニア合唱団と共演を予定しています。

更に、来年2月には周年記念演奏会として、大府市出身で日本はもとより世界で活躍する竹澤恭子(バイオリン)、進藤実優(ピアノ)、佐藤桂菜(チェロ)の各氏と、当団の共演が実現することになりました。

当団は、地域音楽文化振興事業の一環として、今後も大府市の「音楽のまちづくり」に寄与できるよう努めています。

ブルックナー、恋と森とロマンティック。

ハ～イ皆さ～ん! マーシー山本で～す。皆さんは「ロマンティック」と聞いて、何を思い浮かべますか? とろけるような甘いメロディ? それとも胸キュンの恋愛映画または青春ドラマ?しかし、今回取り上げる「ブルックナー」先生にとっての「ロマンティック」は、もう少し牧歌的で生真面目、そしてちょっぴり不器用なものなのです。

というのも、ブルックナーという作曲家は、実に“愛すべき変人”なのです。生涯独身で、沢山の恋はするけど実らない。女性に片思いを重ね、楽譜のページに「何回告白しよう…」なんて数を書き込んでいたほど。

そんなブルックナーが夢見たのが、「中世の騎士と森とお城」のメルヘンの世界。交響曲 第4番《ロマンティック》には、まさにその幻想が詰め込まれているのです。

冒頭のホルンが静かに響くと、そこはもう深い森。騎士たちは朝靄の

中を馬で駆け、遠くにそびえる城の塔が金色に輝く——。ブルックナーは「狩りの情景」「森の神秘」「祈りの瞬間」など、具体的な場面を思い浮かべながら作曲していたそうです。

ブルックナー作品に「長くて難しそう」と身構えていた方も、この交響曲には親しみやすさとワクワクが詰まっています。長さこそたっぷりありますが、まるで映画のように情景が移り変わり、ブルックナーの“妄想ワールド”に引き込まれていきます。彼がオルガン奏者として培った莊厳なハーモニーが、森の中に射し込む光のように美しいのです。

この秋、そんな《ロマンティック》を指揮するのは、いま最も注目される指揮者のひとり、下野竜也さん。N響をはじめ数々の主要ポストを歴任し、作品に新たな息吹を吹き込む名手です。9月20日、ブルックナーの“心の森”をどう描き出すのか、非常に楽しみです。下野竜也さんの指揮で聴く“音の映画館”へ、ぜひお越しください。

12/18(木)

開演 18:30

市民合唱団による 「悠久の第九」



角田鋼亮
©Makoto Kamiya



澤江衣里



杉山由紀
©FUKAYA Yoshinobu auraY2



城 宏憲



伊藤貴之



愛知県芸術劇場コンサートホール

[指揮] 角田鋼亮(音楽監督)

[ソプラノ] 澤江衣里 [メゾ・ソプラノ] 杉山由紀

[テノール] 城 宏憲 [バス] 伊藤貴之

[プログラム] ベートーヴェン: 交響曲 第9番 二短調 Op.125「合唱付」

合唱団募集のご案内

市民合唱団による「悠久の第九」に
出演していただく合唱団の方を募集いたします。

初演から200年以上も演奏され続けている、正に悠久たる「第九」。ベートーヴェンの精神は音楽の中でずっと燃え続けています。さあ、一緒に歓喜の声をあげましょう。素晴らしいリストと共に、皆様のご参加をお待ちしております。

〈セントラル愛知交響楽団音楽監督 角田鋼亮〉

募集要項

- ◆ 参加費用 20,000円 (S席チケット6,000円×2枚進呈) ※進呈チケットの座席位置は当方にて指定。
- ◆ 対象 高校生以上(第九経験者に限ります) ※原則、全ての練習に参加できる方。
- ◆ 募集人員 100名(合唱団編成130名程度を予定。)
- ◆ 練習日時間 10月～12月の水曜日、19時～21時。全5回。ほかに12月3日指揮者指導日、12月17日リハーサル。
- ◆ 練習会場 名古屋市内にて調整中
- ◆ お申込方法 申込フォームに必要事項を入力。または申込書に必要事項を記入し、当団事務局まで郵送。
※お申込み時にいただく情報は、第九公演に関わる業務に使用いたします。
- ◆ 募集期間 7月1日(火)～7月31日(木)必着 ※定員を超えた場合は抽選。※8月下旬頃に応募者全員に参加可否の通知を発送します。



※詳しくは当団HPにてご確認ください

一般発売
6/25(水)

会員先行発売
6/23(月)
6/24(火)

一般発売
9/10(水)

会員先行発売
9/8(月)
9/9(火)

9/20(土) 第213回定期演奏会「渾身のブルックナー」

[会場] 愛知県芸術劇場コンサートホール [開演] 14:30

[料金] プラチナ¥7,000 S¥5,000 A¥4,000 B¥3,000 C¥2,000 ※U25各席半額(入場時要証明書)

10/18(土) 超!有名曲シリーズ Vol.12

[会場] 愛知県芸術劇場コンサートホール [開演] 14:30

[料金] S¥5,000 (Sペア¥7,000) A¥4,000 (Aペア¥5,600) B¥3,000 C¥2,000 ※U25各席半額(入場時要証明書・ペア席対象外)

11/8(土) 第214回定期演奏会「アメリカのロマン主義」

[会場] 愛知県芸術劇場コンサートホール [開演] 14:30

[料金] プラチナ¥7,000 S¥5,000 A¥4,000 B¥3,000 C¥2,000 ※U25各席半額(入場時要証明書)

12/4(木) ハイドンのロンドン精神 Vol.6

[会場] 電気文化会館 ザ・コンサートホール [開演] 18:45

[料金] 一般¥4,000 U25¥1,000(入場時要証明書)

12/18(木) 市民合唱団による「悠久の第九」

[会場] 愛知県芸術劇場コンサートホール [開演] 18:30

[料金] S¥6,000 A¥5,000 B¥4,000 C¥3,000 ※U25各席半額(入場時要証明書)

ご支援のお願い



会員申し込みはコチラから

賛助会員・リスナー会員になると、
チケットの優先予約・会員割引
の優待が受けられます。

チケットシステムご利用のご案内

各公演のチケットは、

- ◆ ホームページの「チケットシステム」で、スマホやパソコンから購入可能!
- ◆ 24時間いつでも、自分で座席を指定してチケットを購入可能! ぜひご利用ください。

チケット
システム

<https://yyk1.karuku.com/caso-s/showList?If=0>

◎ 購入可能なチケットは、チケットシステムの「公演一覧」にてご確認ください。※定期メンテナンス中はサービスを一時停止します。

